

「制度福祉のはざま」の支援を、地域から考える

生活困窮者自立支援法が4月から施行され、これにより、これまでは支援の届かなかった方々にも新たな支援の可能性が拓けてきました。しかし、法の整備を重ねてもなお、支援からこぼれ落ちてしまう人々と、それを支援する人たちがいます。

「制度のはざま」にまつわる現状の課題と、支援のあり方。「セーフティネット（制度福祉）のセーフティネット」について、いっしょに考えてみませんか。

◆開催日時
平成28年1月23日（土）
12:00～17:00

◆会場
日本財団ビル 大会議室
〒107-8404 東京都港区赤坂 1-2-2

◆参加定員
100人

参加費
無料

■団体紹介

* にしはらたんぼハウス（熊本県）

旧中学校宿舎を改修し、3障がい共生型自立支援センターとして活動中。地域のボランティアやホームレスと協力して農業活動を行い、収穫物を加工して販売。障がいの有無を問わず利用できる交流の場として、地域に開放している。

* 藤里町社会福祉協議会（秋田県）

町全体の引きこもり把握調査を行うなかで、働く場所がないために家に引きこもらざるを得なかった人たちを発見。働く場をつくるため就労支援施設を開設。中間的就労として食事処の経営や高齢者の買い物サポートなども行っている。

* ひなたぼっこ（宮城県）

子どもも、高齢者も、しょうがいのある人も、「誰もが地域で自分らしく」暮らせる地域社会を推進。立地している地域の支援と並行しながら、既存の体制では対応できない困難な課題を抱えた人たちを受け入れている。

* ボランティアグループすずの会（神奈川県）

「ちょっと困ったときに気軽に鈴を鳴らしてほしい」そんな思いを込めて1995年に「すずの会」を設立。誰にでも優しい街づくりネットワークを目指し、ちょっと気になる人の生活課題の解決に向けて身の丈にあった活動の実践を続けている。

* ふるさとの会（東京都）

生活困窮者、高齢者に対する居住と居場所（就労・社会参加含む）の確保を支援。「認知症になっても、がんになっても、障がいがあっても、家族やお金がなくても、地域で孤立せず、最期まで暮らせるように」という事業目的を掲げ活動を行う。



■プログラム

12:00～12:10 開会

12:10～13:00「制度福祉のはざま」とは何か

中京大学 教授 野口 典子
 全国コミュニティライフサポートセンター
 理事長 池田 昌弘
 にしはらたんぽぽハウス（熊本県）
 施設長 上村 加代子

13:00～14:00「制度のはざまを地域で支える実践Ⅰ」

すずの会（神奈川県） 代表 鈴木 恵子
 藤里町社会福祉協議会（秋田県）
 会長 菊池 まゆみ

■サポーター
 全国コミュニティライフサポートセンター
 理事長 池田 昌弘

■コーディネーター
 中京大学 教授 野口 典子

14:00～14:15 休憩

14:15～15:45「制度のはざまを地域で支える実践Ⅱ」

NPO 法人自立支援センターふるさとの会（東京都）
 常務理事 滝脇 憲
 ひなたぼっこ（宮城県） 管理者 高橋 正佳

■サポーター
 厚生労働省 社会・援護局 生活困窮者自立支援室
 室長 本後 健

■コーディネーター
 東北福祉大学 教授 高橋 誠一

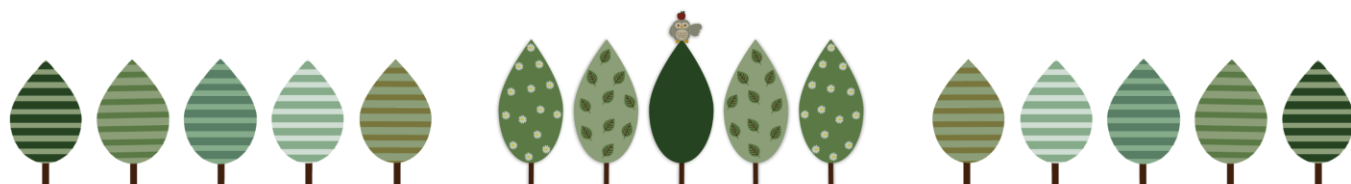
15:45～16:00 休憩

16:00～17:00「まとめのセッション」

鈴木 恵子／菊池 まゆみ／上村 加代子
 滝脇 憲／池田 昌弘／本後 健

■コーディネーター
 東北福祉大学 教授 高橋 誠一

17:00 閉会



「制度福祉のはざま」の支援を、地域から考える 参加申込書

事務局／全国コミュニティライフサポートセンター（CLC）

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町 16-30 シンエイ木町ビル 1 階

TEL：022-727-8730／FAX：022-727-8737 担当：大場・千葉

氏 名			所 属		
住 所	〒 (自宅・職場)		TEL		
			FAX		
MAIL					